

文献 15

Hanaoka, Yukichi; Shimizu, Kazuhiro; Watanabe, Koichi; Akama, Takao; Miyamoto, Toshikazu. Effect of acupuncture stimulation on salivary human beta-defensin 2 after a single strenuous exercise in young male subjects. Japanese acupuncture and moxibustion. 2016; 12(1): 1-8.

1. 目的

一過性の運動負荷に伴う、唾液中のベータディフェンシンの変化に対する鍼刺激の影響を検討する。

2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験、クロスオーバー試験（詳細の記載なし）

3. セッティング

記載なし

4. 参加者

健康成人男性 7 名

5. 介入

運動後に安静にする群（ex-rest 群）、運動後に鍼治療を行う群（ex-acu 群）の 2 群を設定。鍼治療は、孔最と合谷、左右の足三里に低周波鍼通電刺激（2Hz、30 分間）を行い、頰車へは 5 分おきに鍼刺激の刺激感を与えた。

6. 主なアウトカム評価項目

一過性の高強度運動による唾液量、唾液中のベータディフェンシン（hBD2）の濃度、自覚的疲労感（VAS：0 - 100 mm）を運動前、運動直後、運動 1 時間後、2 時間後、3 時間後、24 時間後に測定を行った。

7. 主な結果

唾液量は、ex-acu 群で 2 時間後に有意に増加し、ex-rest 群では変化はみられなかった。hBD2 の濃度は、ex-rest 群では変化はみられず、ex-rest 群では、運動直後、運動 1、2、3 時間後に有意に低値を示した。自覚的疲労感は、両群とも運動直後に有意に増加した。

8. 結論

鍼刺激は、一過性の高強度運動により低下する hBD2 の変動に影響を与える。

9. 論文中的安全性評価

記載なし

10. Abstractor のコメント

本研究は、一過性の高強度運動における免疫機能低下に対する鍼刺激の影響を検討した報告である。また、免疫機能の指標として hBD2 に着目しており、大変貴重なデータである。しかし、群分けの詳細などは記載されていない。また、両群間での比較ではなく、各群の変動について検討が行われている。今後、スポーツ現場への応用も期待される報告である。

11. Abstractor and date

藤本英樹 2021. 1. 10